

2017 年度（平成 29 年度） 事業報告

及び

2018 年度（平成 30 年度） 事業計画（案）

特定非営利活動法人プール・ボランティア

2017 年度（平成 29 年度） 事業報告 及び 2018 年度(平成 30 年度) 事業計画（案）

特定非営利活動法人プール・ボランティア
(以下「PV」と省略する。)

1. 事業報告期間 2017 年1月1日 ～ 2017 年 12 月 31 日
事業計画期間 2018 年1月1日 ～ 2018 年 12 月 31 日

2. 2017年度活動実績(2017年12月末現在)

■ボランティア会員

のべボランティア会員入水数	3,491名
ボランティア活動実人数	名
入会ボランティア会員数	27名
退会ボランティア会員数	17名
現ボランティア会員数	193名(2017年度の最終会員番号 PV-1251)

■利用会員

のべ利用会員入水者数	3,110名
入会利用会員数	10名
退会利用会員数	14名
現利用会員数	74名(法人会員を含む。)

■PV応援団(寄附会員)

	107名
寄附者	15名(法人を含む。)

■会計実績

経常収益	30,946,076 円
経常費用	27,416,502 円
累積負債総額	13,346,340円
消費税納税額	0円 (消費税免税事業者のため)

3. 2017年度の活動総括

■会費など

入会金は3万円(未就学児は1万円)、ボランティア交通費負担金3,000円/月、水泳指導料は無料、というところは変更ナシ。今年度から、毎月会費を15,000円に値上げをした。2018年度は、毎月会費を16,000円に値上げする予定。毎年1,000円ずつ値上げをしてきたけれど、これでストップの予定。

■無償貸与品

利用会員については、スイムキャップ、水着、ゴーグル、曇り止め、アームヘルパー、ノートセットなど水泳関係用品については、すべて無償貸与にしているところも変更ナシ。利用会員側に適切な水着などを選ぶ知識がないためのサービスである。支出がすごく大きくなるが、今後も継続していくつもり。障がい児も、カッコイイ水着を着るべきや。

■写真版事業報告書

今年度も、会員や一般市民向けに、わかりやすく、かっこいい写真版の「事業報告書第5号/想いツナガル」を作成した。行政に提出する堅苦しい事業報告書とは全く別のものである。

来年度も第6号を作成する予定。第5号からは業者に委託しないで、自前で製作している。

■商標登録

新たにPVのロゴマークを商標登録した。将来に備えるためである。

2018年度には、日本で初めての「重度身体障がい者用新型浮き具」の特許申請をする予定。

■近畿圏以外での活動と姉妹校の誕生

2018年度には、「NPO法人プール・ボランティア湘南」が誕生する予定。こういう姉妹校を全国に作ってきたい。キーワードは、「全国」である。4月には、福岡県太宰府で「障害者対応研修」を開催した。

■大阪マラソン

昨年に引き続いて第7回大阪マラソンの寄付先団体に採択された。快挙である。

一年中、この大阪マラソンに関わることで、負担も大きいけど、楽しさやつながりができることが大きな収穫である。2018年度も、3回目の採択がされるように希望している。

■大阪府条例指定NPO

厳しい審査をクリアして、ようやく「大阪府条例指定NPO」になることができた。(11/13)

4. 6つの事業ごとの報告とそれぞれの来年度の目標

(1)障がい者・児の支援事業

今年度も、質的に素晴らしいサポートができて満足している。指導能力の高いボランティア会員の増加が活動内容の充実につながっている。

来年度も、増え続けるニーズに応えるため泳げるボランティアをもっともっと増やさなければならない。この障がい者支援事業がPVの事業収入の本丸なのだから、安定した事業運営のためには、この部分をさらに充実していく必要がある。

また、この事業の推進に指定管理者や行政の協力は欠かせない。来年度は、さらに仲良くしていきたい。

(2) プール・リハビリ事業

来年度も、高齢者に限らず、肢体不自由者のためのいいリハビリに取り組んでいきたい。この事業は、手間と時間と費用がかかるが、頑張りたい。平日の昼間のボランティアを、もっと確保する必要がある。

「リハビリの効果は、水泳練習の延長線上にある。」

(3) プール・オンブズマン事業

今年度も、いろいろな提言活動をした。指定管理者や行政の反応はとても鈍いものがあるが、地道に提言活動を継続することが大事なことだと考えている。

来年度も、各自治体やプールに対して積極的に働きかけ、障がい者を取り巻くプール環境の改善に少しでも努めたい。

この18年間の活動で、近畿圏のプールは、すごく良くなってきていると感じる。指定管理者や行政にも、少しずつ理解をしていただけるようになってきた。

(4) 障がい者用水着等企画開発事業

身体障がい者の場合、身体にフィットした水着が市販の水着では手に入らないので、水着メーカーにお願いして個別に作ってもらう橋渡しの活動をしている。今年も特注の水着を作成した。

また、各プールに常置されている「プール用車イス」も改良型を提案していかなければならない。この事業も収益性がなく、派手な宣伝効果もないけれど、地道に活動を継続することが大事なことだと考えている。プール用の車イスについては、故障が多く管理が難しいので、大阪市に対して、リース契約をすることを推奨している。

また、外国製に頼らず日本製でいいプール用車イスを開発していきたい。

(5) 障がい者対応研修普及事業及び施設点検事業

今年度も大きく発展した事業であるし、今後も大いにチカラを注ぎたい事業である。

指定管理者制度は良い面も多いが、どの指定管理者も障がい者対応については、経験と知識がなさすぎると感じる。市民プールの「市民」の中には、障がい者も性的少数者も含まれているはず。

もっともっと勉強してもらいたい。

でないと、公営プールの運営など、できまへんで！

今年度は、初めて民間のスイミングや民間の株式会社で「障害者対応研修」を開催。

■コナミ(西成屋内プール) (1/23 と 9/4)

■公益財団法人宝塚市スポーツ振興公社(宝塚スポーツセンタープール) (2/4 と 2/18)

■公益財団法人こうべ市民福祉振興協会(しあわせの村プール) (3/14 と 7/18)

■(株)宰都(福岡県太宰府) (4/10~12)

■ガボスイミングスクール(7/13 と 8/16)

■コナミ(吹田勤労者会館) (9/23)

■(株)東大阪スタジアム(東大阪アリーナ) (10/17)

(6)PVマスターズチーム運営事業

今年度も、大きな成果を上げることができた。

会員間の親睦の意味もあるが、試合会場に掲示するPVの大段幕や参加人数の多さで、PVの知名度をさらにアップさせたい。そして、ボランティアの募集や啓発活動につないでいきたい。

■2017年(平成29年)5月13日(土)、14日(日) マスターズ大会(ラクタブドーム・短水路)

■2017年(平成29年)9月18日(祝・月) 報知マスターズ大会(大阪プール・長水路)

(7)その他(講演、講習、パーティー、イベント、協力事業など)

■公益財団法人JR西日本あんしん社会財団に協力して「AEDによる救命処置の普及啓発講習」を各地で開催した。

・西成屋内プール(2/28と9/5)

・平野屋内プール(3/28)

■一般財団法人H2O サンタに協力して啓発活動をした。(阪急百貨店祝祭広場)

「H2O サンタチャリティートークイベント」

「H2O サンタ NPO フェスティバル」

■その他のイベント

2/20 第7回大阪マラソン非公式交流会

4/29 PV in 鶴見緑地プール

5/16 奈良不動院草刈り奉仕

6/1 阪急うめだホールで漫才

6/30 ドライヤー贈呈式(阪急百貨店祝祭広場)

8/11 PV in ラクタブドームプール

10/9 大阪マラソンなないろ合同練習会

11/26 第7回大阪マラソン

12/11 PV 設立18周年記念パーティー&年末忘年会(中ノ島中央公会堂)

■講師など

・着衣泳講習(6/26 北恩加島小学校プール)

・神戸女学院で講演(7/12)

・グローイング・アカデミーの講師として講座を担当する。(2ヶ月に一回)

・FM大阪収録(10/16)

5. 各会員についての報告と来年度への課題

(利用会員)

この不況にもかかわらず、利用会員の入会希望者は増え続けている。けれども、業者と間違えているような利用会員は入会させるべきではない。PVの基本理念に賛同していることは、入会の絶対条件である。

これからも、年齢、障害の内容、程度を問わず、どんどん受け入れていく。

ただ、利用会員の定員は、おおむね 100 名が限度と考えている。

(ボランティア会員)

ボランティア会員は、まだまだ不足である。質の良いボランティアの確保こそがPVの生命線であるという認識は設立以来ずっと不変である。

年々応募してくるボランティア希望者の質的レベルが高くなってきていると同時に、事務局からボランティアに求めるレベルも高くなってきている。

入会したボランティア会員で1年後も継続して活動しているボランティアは、それほど多くない。指導能力のないボランティアは、PVでは生き残れない。

ボランティア会員の獲得については自然の増加に任せてはいけない。高校水泳部、大学、専門学校、マスコミなどに積極的にアタックして、一人でも多くの「泳げるボランティア」を獲得すべきである。

ところで、毎月のように、ボランティア主催のPV親睦会が開催されている。PVの財産は、こういう仲のいい素晴らしいボランティアさんたちであり、PVの事業は彼らによって支えられているのである。

ボランティア同志の結婚も、12組になった。素晴らしいことである。

ボランティア会員を動かしているものは、何だろうか？

彼らには、1回 500 円の交通費しか支給していないのであるから「お金」が目当てでないことは、明白である。

では、何か！

PVの職員は、常にそのことを考える必要がある。

ボランティアに支払う謝礼や交通費を二倍にしても三倍にしても、質のいいボランティアが集まるわけではけっしてない。

(PV 応援団と寄附金)

気軽に寄付行為ができる「PV応援団」が、確実に成果をあげている。たくさんの金銭的支援者を集めることも大事であるが、PVの活動趣旨を理解し、真に協力者となっていただける方だけを対象とすべきだという方針に変わりはない。お金だけもらってもありがたくはないし、支援される側のチカラにはならないからである。PV 応援団員数が、やっと 100 名を超えることができた。

6. 事故報告

PV事業において「安全」が最優先されることは当然のことである。事業収益やボランティア会員の安易な穴埋め的配置を「安全」に優先させてはならない。

常に、職員が肝に銘じておくべきことである。

今年度も小さなケガや事故は日常的に発生したものの、この事業報告に記載しなければならない救急車を要請するような大きな事故は一つもなかったことにホッとしている。

いいボランティア会員によるマンツーマン体制という質の高いサポートをしている限りにおいては、そうそう

事故の発生などはない、と書きたいところだけれど、溺水事故を 100 パーセント未然に防ぐなんてことは、神様でなければできない芸当である。

われわれは、これからも常に事故のリスクを負いながら活動していることを忘れてはならない。

特に、子どもの潜らせ方や活動中のテンカン発作の応急手当等については、Web れんらく帳に掲載するなどして、ボランティア会員にしっかりと伝達していく。

7. 今後の展望と事業展開

(1) 今後の展望

PV活動をひとつのコミュニティービジネスとして捉えるならば、われわれは常に変化する市場の動きに敏感でなければならない。自らの信念・使命(ミッション)を堅持しつつ、社会の動きに合わせた柔軟で自然な事業展開こそが必要である。

「自由」「ユニーク」「今までにない切り口」「小回りがきく」「楽しい」「感動」「充実感、満足感がある」「心意気、男気」「遊び心」「専門性」「決断が早い」などのNPOの特性を常に意識し、お役所的、保身的な運営にならないように注意すべきである。

職員にとっても会員にとっても魅力的な組織でなければPVは成長できないし、強烈な個性がなければNPOとしての存在意義がないことも自覚すべきである。

ただ、冷静に見てもPV事業が今後大きく失速するような要因は今のところ見当たらない。

全国的に見ても、同様な活動をしている団体は皆無であり(オンリーワン)、社会的には追い風状態で、不測の大きなアクシデントがない限り、このまま少しずつではあるが順調に発展すると予測している。

(2) 全国展開と事業規模の最適化の問題

ここ数年、全国からの問い合わせが多く、特に首都圏からの問い合わせが群を抜いて多い。関東でPV事業を展開すれば大当たりすると思うのだが、今のところは、大阪周辺だけで手一杯である。戦略的には、大阪を中心として、しっかりと安定収入を確保できるようになるまで、地域的な拡大は目指さないほうが良いと考えている。でも、自然なチャンスがあれば、京都(京都アクアリーナ・プール)での開催を実現したい。

ところで、ドラッカーが言うように、事業の規模を考えることはとても重要である。

どれだけコンピューターに任せたとしても、最後のマッチング(利用会員とボランティア会員の相性などを考えて組み合わせること)については、職員の手作業でするしかない。

コンピューターでは、できないところである。

職員が、すべての利用会員の障害の内容や程度、性格、そして、すべてのボランティア会員の指導能力や個性を把握していなければ、この最終段階の組み合わせはできないからである。

そうすると、PVの二人の職員が展開できる事業の規模は、過去の経験から、だいたい、のべ年間 4,000 名(入水実数)、利用会員 100 名ほどである。

これ以上に事業規模を拡大することは、事業の質を落とし、事故を誘発することになる。

したがって、近畿圏については、現状がマックスであると思う。

今後の事業の拡大については、近畿圏以外の地域において姉妹校とか支部とか、全く独立した組織と連携していくという方向で検討していく。

数年以内には、「NPO法人プール・ボランティア愛知」とか「NPO法人プール・ボランティア福岡」とかが

誕生するかもしれない。

(3) 別の収入源の模索

現在の収入の手段以外に何か別方向からの収入を得る道を模索し続けなければならない。

それが、業務委託なのか、スポンサー収入なのか、広告収入なのか、講演料なのか、イベント収入なのか、支援費制度とのからみなのか、物品販売なのか、本を出版することによる印税なのか……。

今年度も模索だけに終わったが、来年度も模索だけに終わるかもしれない。

この問題を解決しない限り、新職員を採用する財政的な基盤が確保できない。

(4) 行政との連携

マスコミなどで、NPOと行政との連携がどうのこうのと言われているが、現実には行政との連携については、かなり難しいものがある。行政側の熱意と工夫のなさ、コスト感覚のなさ、発想の貧困さ、動きの重さ、手続きのややこしさなどがあり、同一行動がとりにくいからである。

甘い「連携」などという言葉に踊らされないよう慎重に対応する必要がある。

このように書くと行政との連携を嫌っていると勘違いされるようであるが、むしろ逆であって、行政との良い連携については切望しているのである。社会を変える最も効率的な方法が、行政と仲良く手を組むことだからである。なんか一緒にでけへんかなあ。

(5) 指定管理者、民間企業との連携

プールを運営する指定管理者とは、上手にギブアンドテイクで連携していく必要がある。プール環境を良い方向に変え得る最も直接的な相手だからである。

顧問契約等を締結しているシンコー、コナミ、翔成、ホス、宝塚や、日頃から仲のいいミズノやオージーなど、少しずつPVの存在価値を認識してもらえるようになってきた。障がい者対応研修普及事業を通して、もっと連携を濃くしていきたい。

(6) IT技術のさらなる活用

事業の質、量の拡大、職員の仕事の軽減、ボランティア会員の活動予約や活動への指示、利用会員からの予約の整理、交通費や利用料金などの精算、その他の会員管理など、IT技術の導入による効果は、すこぶる大きい。

PVのオリジナルマッチングソフトも、今後も、どんどん改良を加えていく必要があり、実際に、かなりの費用をつぎ込んでカスタマイズしていつている。この部分に投入する資金を惜しんではならない。

今年度から、Web れんらく帳サイトをスマートフォンから見やすいように改良した。

(7) ホームページの重要性とフェイスブック、ユーチューブなどの活用

ホームページは、特に重要と考えている。

来年度中には、新しいホームページを完成させる予定である。

また、フェイスブックのような手段で他人と交流することについては好きではないし、抵抗があるが、その大きな効果については認めざるを得ないので、苦手ながら、活用するよう努力していく。

今年度も動画をユーチューブにいくつか発信した。

(8) 職員の研修、福利厚生

PVの職員は超多忙で、休日はほとんどなく、給料も安い。

その一方で、たくさんのボランティアさんと気持ちのいい付き合いをし、たくさんの障がい児に優しく接するためには、ハイレベルの心の余裕や遊び心が必要である。みずみずしい感覚の有無が、直接、事業の良

し悪しに響いてくる。したがって職員研修や福利厚生の実充などが重要になってくるのであるが財政的に、時間的にあまり大がかりなことはできない。

そこで、安価で短時間で効果的な研修や福利厚生などに、来年度もチカラを入れていくつもりである。

吉本新喜劇を見てバカ笑いをするとか、心ときめく映画を見に行くとか、通天閣に登るとか、美味しいランチを食べに行くとか……いろいろとNPOらしいアイデアで職員の心の水分補給をしていきたい。

それでも、ここ数年は、かなり福利厚生を充実させてきている。

一般的に言って、NPOの職員が、過酷な労働条件の下で働いているのは、その仕事に誇りを持ち、やりがいがあり、人間関係が良く、楽しいからである。そのことを十分に認識し、理事長として少しでも快適な職場環境の維持、彼らの生活の安定に努めたいと思っている。

(9) 内部留保金(法人としての貯金)と借金の返済

年々、財政的には右上がりであるが、まだまだ完全な黒字というわけではない。少なくとも、「持ち出し」や長期借入金は、ほとんどなくなってきた。今後は、内部留保金を蓄え、3ヶ月は、アクシデントがあっても持ちこたえられるような基盤を作ることを課題にしたい。

同時に1,300万円ほどある借金も、少しずつ返済していきたい。

(10) 事務所の移転と新職員の採用

NPOにとって、事務所、専従職員、パソコンは、三種の神器である。しっかりと地に足をつけた事業運営を考えると、この三つは欠かせない。PVは、常に先駆的でプロフェッショナルな組織でありたい。

現在の事務所は、すでに20年目を迎え、少し手狭になってきたし、新しい職員も採用したい。

そこで、この事業の将来を見据えて、近い将来に自社ビルを建てるか、新しい広い事務所に移転するかを考えている。そして、よい人材を採用し次世代に引き継いでいきたい。いわゆる「後継者」問題である。

8. 顧問、業務委託関係についての報告

弁護士	小坂梨緑菜さん(PV-664/正会員)
司法書士、社会保険労務士	達富慎也さん(PV-163/正会員)
弁理士	西村弘さん(PV-957)
行政書士	横山佳代さん(PV-1083/正会員)
税理士	谷本晃さん(PV応援団)
IT環境・ホームページ	株式会社 Type-T (PV応援団/正会員)
理学療法士(PT)	森本羽衣子(PV-588)
作業療法士(OT)	奥井ひとみ(PV-583)
言語聴覚士(ST)	該当者ナシ
医療顧問団	NPO 法人地域医療連繫団体Needs(PV応援団)
写真担当	NPO法人広報写真ボランティア(正会員)
相談役(牧師)	松本信章(PV-051/正会員)

9. 社員総会の開催状況

2016 年度 PV正会員総会

【日 時】	2017 年 3 月 19 日(日) 18:00~19:00
【場 所】	PV事務所
【社員総数】	10 名
【出席者数】	10 名
【内 容】	2016 年度事業報告の承認 2016 年度決算報告の承認 2017 年度事業計画(案)の承認 2017 年度予算(案)の承認

10. 理事会の開催状況

2017 年度 PV理事会

【日 時】	偶数月の第一日曜日に開催 19:00~20:00
【場 所】	PV事務所
【出席者数】	3 名